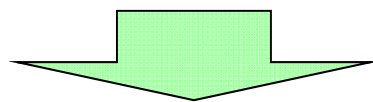


大仙市(東北ブロック)

【計画期間 22年11月～28年3月】

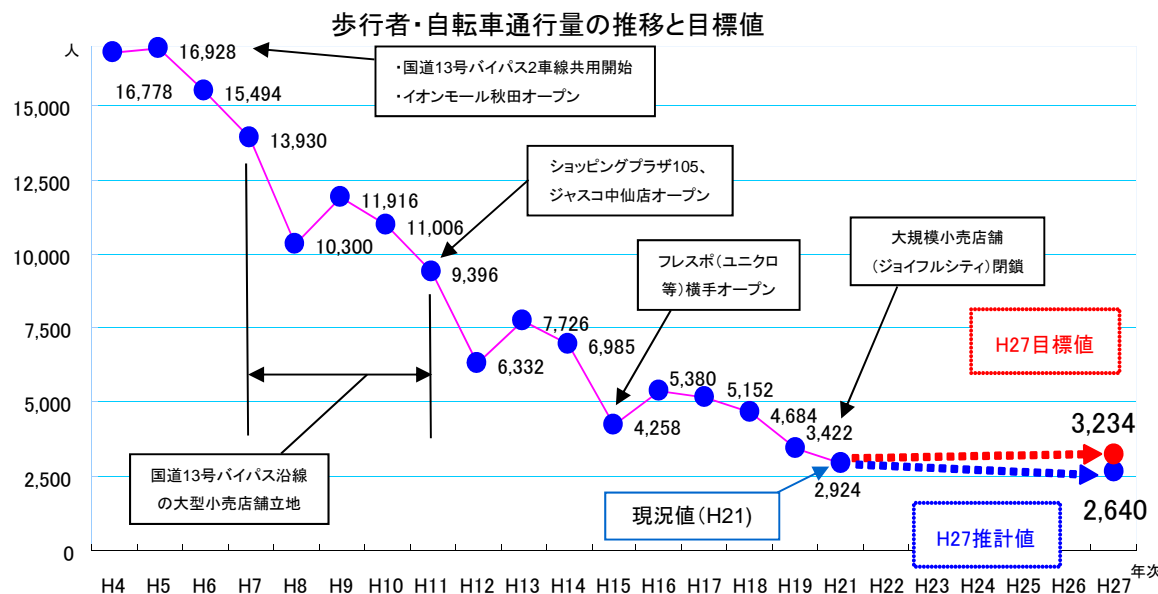
- ・江戸期：羽州街道や雄物川を利用した舟運により物資の集散地として繁栄
- ・明治～大正：大曲駅の開業により秋田県仙北地域の中心都市に
- ・昭和～平成：豊かな労働力・経済力を背景に農工一体の発展を遂げ、平成17年3月に8市町村による平成の大合併で大仙市が誕生

- 総合病院の老朽化や児童・高齢者福祉施設の不足により中心市街地としての求心力が低下。
- 郊外大型小売店の出店、中心市街地の大型小売店舗の閉鎖により商業機能全体が低下。
- 市民ニーズの多様化、ライフスタイルの変化より、年間を通じた中心市街地の交流施設の利用者数が低迷。



- 歩行者通行量の減少
H5：16,928人/日
→ H21：2,924人/日 (▲ 82.7%)
- まちなか交流施設の利用者数の低迷
H17：101,025人/年
→ H21：90,239人/年 (▲ 10.7%)

目標	指標	現況値(H21年)	目標値(H27年)
医療・福祉機能等が充実したまち	歩行者・自転車通行量(平日4地点合計)	2,924人/日	3,234人/日
生き生きと交流・活動できるまち	まちなか交流施設の利用者数	90,239人/年	122,145人/年



注)歩行者・自転車通行量は、4調査地点における平日の合計

■ 人々の暮らしに必要な医療・福祉・健康といった機能を集積・強化するとともに、魅力的な商業機能を構築し中心市街地の求心力の再生を目指す。

⇒ ①総合病院・複合商業施設等の整備、②健康増進センター・児童福祉施設の整備、③「まちなか待合室」機能構築事業など

■ 人々が交流できる施設を充実させ、多くの人々が交流・活動できるまちを目指す。

⇒ ④地域交流センターの整備、⑤『花火庵』『ペアーレ大仙』の中心市街地にぎわい創出事業など

大仙市中心市街地活性化基本計画の事業概要

多くの人が訪れる医療・福祉機能等が充実したまち

①医療・福祉の拠点整備

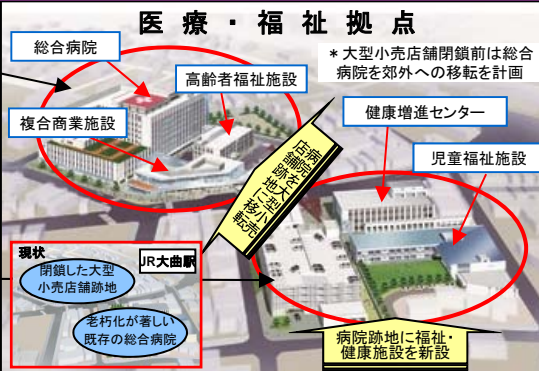
大曲通町の大型小売店舗が閉鎖した跡地に**総合病院、高齢者福祉施設及び複合商業施設**を新たに整備し、中心市街地の再生を図る。

②福祉・健康施設の整備

大曲通町の仙北組合総合病院移転跡地に**健康増進センター、児童福祉施設**を新たに整備し、中心市街地の再生を図る。

③魅力的な商業機能の構築

花火通り商店街の空き店舗を活用した交流施設等に、**医療機関の受診待機情報や商店街情報を表示する情報モニター**を設置(まちなか待合室)し、医療機関と既存商店街との結び付きを強化し、商業の活性化を図る。



多くの人が生き生きと交流・活動できるまち

④高次都市施設整備事業

人々の交流・活動を促進させるための高次都市施設として、**新たに地域交流センター**を整備し、地域コミュニティの再構築を図る。

⑤中心市街地にぎわい創出事業

花火通り商店街に立地する「花火庵」と「ペアーレ大仙」は市民講座や商店街のイベント、ボランティア団体の活動の場として利用しているが、**更なるニーズに応えるため取組の充実を図り利用者を増加**。



一晩に観覧者が70万人を超える日本屈指の花火競技大会